

- 生物資源学科
- 生物環境システム学科
- 生命化学科

## 人材養成等教育研究に係る目的

農学部は、より広い視野で農学を捉え、「資源・環境・生命」の3点を柱として生物資源学科、生物環境システム学科、生命化学科の3学科を設置する。教育・研究は、全人教育の伝統を活かし、実物教育、総合的・学際的視点、国際性、倫理観の4つの視点を重視する。これらを通じ、科学の基本である「なぜ？」という鋭い視点をもつ人材、問題を発見・解決する意欲と実行力のある人材の養成を目的とする。このために、基盤から基幹へ、さらに専攻へと発展させる体系的な教育プログラムを設けている。また、理科教員養成を目指す学科横断的コースを設けている。

生物資源学科は、人類と環境の共存のために科学技術を正しく使える人材の養成を目指し、あらゆる生物を「資源」として捉え、有用形質・機能の開発に関する理論と技術を習得する。これらの生物機能を理解し、生物生産の効率化、未利用資源や生物の新機能の開発に関わる教育・研究を展開する。

生物環境システム学科は、持続的循環型社会の形成に貢献することを目指し、環境保全、生物の尊さを理解した人材、創造性・主体性・国際性を兼ね備えた人間性豊かな人材の養成を行う。最大の特色は、海外および国内の教育機関および本学の各施設を利用した独自カリキュラムにあり、生物と地球環境とのつながりを理解する。

生命化学科は、生命を「化学」の視点で捉えることを学科の基盤に据え、食糧生産、有用天然物質利用、健康、環境の分野で世界に貢献できる人材養成を目指す。そのために必要な科学的知識と科学的技術、および、それらを社会の中で正しく使用するための教育・研究を推進する。

## ディプロマ・ポリシー

農学部は、人材養成目的に基づくカリキュラムを通して、以下の知識・技能・態度を学士力として修得・涵養し、卒業要件を充足した者に、学士（農学）の学位を授与します。

- \* 農学をはじめとし、様々な自然科学分野の情報を、収集・分析・理解・説明することができる。
- \* 生物学や化学を基盤とした農学に関連する科学的知識を、社会で必要とされる新たな知識・技術の発見や獲得、持続可能な発展、地域や地球規模での環境保全に応用できる。
- \* 社会の一員として、協調性や共同作業における役割分担の重要性を理解し、それらの態度・志向性をもち、生涯にわたって学ぶ姿勢を維持・向上することができる。また、それらを通じて社会に貢献できる。

学位授与に当たり、各学科・コースが重視する学士力は次の通りです。

### 生物資源学科

- \* 生物資源を有効利用するために必要な自然科学分野の情報を、収集・分析・理解・説明できる。
- \* 農学に関連する科学的知識を、新たな知識・技術の発見や獲得、人類の持続可能な発展、環境保全に適用できる。
- \* 生物と農学の学びに基づいて、協調性や社会貢献の重要性を理解し、それらの態度・志向性を生涯にわたり向上できる。

### 生物環境システム学科

- \* 自然環境と農業に関する自然科学・社会科学分野の情報を、収集・分析・理解・説明できる。
- \* グローカルな視点で自然環境と農業の重要性・環境問題の多面性を理解し、持続可能な発展と循環型社会の構築に貢献できる。
- \* 国際社会の一員として、協調性や社会貢献の重要性を理解し、それらの態度・志向性を生涯にわたり向上できる。

### 生命化学科

- \* 化学を基盤として生命化学および関連分野の情報を、収集・分析・理解・説明できる。
- \* 生命現象の多様性と普遍性を化学的および生物学的に理解し、その知識・技能を応用して人類の持続可能な発展や環境保全に貢献できる。
- \* 生命化学にとどまらず幅広い視野をもち、協調性や社会貢献の重要性を理解し、それらの態度・志向性を生涯にわたり向上できる。

### 教職課程（教職コース）

- \* 中等教育の意義と重要性を理解し、真摯な態度で生徒指導に当たることができる。
- \* 理科または農業のおもしろさ、大切さを理解し、理科教育または農業教育に必要な情報を収集・分析・理解し、生徒に対しわかりやすく説明できる。
- \* 変化し続ける教育現場にあって、自己を研鑽し、教員としての資質を生涯にわたり向上できる。